

Fusyo Collaboration letter

6月20日 No.15 文責 廣田 秀俊



“さいこう”を目指した「真の力」「絆の輪」「攻めの学び」

○「攻めの学び」

事前学習で平和について学んできた6年生。最初の活動ピースキャラバンから攻めの学びを実践していました。長崎大学の学生からの問いに、自分に矢印を向けながら考え、仲間と語らい、何をを目指すのかを想像していく姿。過去を振り返り、現在を知り、未来を考えることを止めることはありませんでした。平和のためにできることは何か？「意見を押しつけない」「世界に1つの共通ルールをつくる」「身近なところから絆の輪を広げる」「学んだことを受け止めて未来の子に伝えていく」など、自分なりの答えを出していきました。見学地でも一つ一つしっかりと資料や写真を見ながら、しおりに記述を続けました。平和集会で唱えた『クスノキ』には、6年生の思いが歌声として響いていました。平和祈念像の前で行ったアウトプットの時間に、学びの中での驚きや心に残ったことを通じて、丁寧に高め合っていこうとする姿を見せていました。



○「絆の輪」

自主研修出発前に確認したことは、チームがバラバラにならないことでした。挨拶すること、攻めの学びを忘れないこと、時間を守ることなど、自分たちで自覚を持って行動することを念頭に、それぞれの場所へ向かっていきました。班の仲間を気遣うこと、自己内責任を持って行動すること、これらは班長会議でも話題になったことでした。長崎のそれぞれの場所で学んだこと、吉野ヶ里歴史公園で知り得たことを振り返る際にも、自分たちの成長部分は何だったのか、課題をクリアできていたのかを仲間とともに確かめていくことができました。目指すのは、常に“さいこうの思い出”が作れているかでした。グリーンランドで見た、仲間と過ごすはじける笑顔の時間が、成長をし続けた証となっていました。



○「真の力」

自分たちに足りない力は何か？1日目の班長会議で確かめ合ったことです。すべてがうまく進んでいるわけではないことも出てきました。たくさんの経験を積みながらも、改めて公の意識ができていないのかを考えたとき、心のブレーキをかけられていない部分があることがわかってきました。当たり前のことだけでなく、+αの行動を忘れないこと、成長をし続けるための挑戦を続けること、自分たちで課題を持って行動することを修学旅行中に見つめ直していきました。3日目の朝に宿泊先の方から「過去1番の学校でした」と、言葉をいただき、自分たちで行ってきたことが周りから認められたことに嬉しさを感じ取っていました。真の力を発揮できたことで、“さいこう”の修学旅行を実行することができました。

